



第3回 MTA セミナー

医鍼連携モデルの構築に向けて

Migraine Treatment and Acupuncture Unity



開催報告 Vol.3 2025/02/09

2025年2月9日、福岡県福岡市博多区博多駅前にて、第3回 MTA セミナーを開催しました。

今回は、「頭痛診療の啓発活動と診鍼連携」について池田耕一先生、「女性の片頭痛患者さんと追求する Well-being ～頭痛診療医の立場から～」について大場さとみ先生にご講演をお願いしました。後半は、「鍼通電による頭痛施術」として杏鍼灸整骨院院長の陣内由彦先生に実際に遭遇した危険な頭痛症例の紹介や実技指導をしていただきました。

本セミナーの主旨

本セミナーは Pfizer 医学教育プロジェクト助成の一部となっており、本プロジェクトを通して医療と鍼灸をつなぐ医鍼モデルの構築を目指しております。

鍼治療は片頭痛に対してガイドラインで掲載・推奨されており、頭痛専門医からの関心も高いですが、国内では未だ医鍼連携は進んでいない現状があります。そこで、どの程度の知識があることが望ましいのか？について頭痛専門医に複数回講演をしていただき、鍼灸師の頭痛診療に対する知識レベルの底上げを行います。

最終的には、地域での頭痛専門医と鍼灸院の連携を推進し、国内で多施設共同の臨床試験を行い、エビデンスレベルの向上を目指していきたいと考えております。



研究代表者：石山すみれ
茨城県立医療大学 保健
医療学部 医科学センタ
ー助教 / はり師・きゅう
師・博士（医学）

X : @suishiyama



終了後アンケートのお願い

この度はお忙しいところ、第3回 MTA セミナーにご参加くださり、大変ありがとうございました。

右の QR コードから終了後アンケートにご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

また講師の先生方への感想などもいただけるとありがたいです。いただいた感想は匿名化した状態で講師の先生にお渡しいたします。今後ともよろしくお願い申し上げます。



回答締切 2025/03/09

頭痛診療の 啓発活動と鍼灸連携 池田耕一 先生

池田脳神経外科 院長

頭痛が日常生活に与える支障度について、予防薬使用割合の少なさ、医師の中でも専門医と非専門医の連携を強化して、頭痛で困っている患者さんは専門医の受診を勧めるべきというお話をしていただきました。また、頭痛診療の均てん化のための活動として「頭痛いろは塾」「福岡頭痛外来ネットワーク」のご紹介もありました。今回私たちが行なっている取り組みも鍼灸師における頭痛に関する知識の均てん化につなげたいと思います。また池田先生から見た鍼灸師との連携の壁や思いもお話いただきました。今後も、地域での医師と鍼灸師の " 顔の見える連携 " が重要になっていくと思われれます。

受講者リクエストの多かった女性の片頭痛について疫学・病態から治療に至るまで幅広くご紹介いただきました。女性に多い疾患であり、さまざまなライフステージに関わる片頭痛について性差医療からの考えや、プレコンセプションケア・社会的背景など鍼灸治療に活かせる内容だと思えます。先生が進めている大分県での他科連携の実態や企業を交えての発展などどのようにすればより患者さんに情報が伝わるか、など考えるポイントが満載でした。ヘンズツウカルタは頭痛患者さんあるあるがたくさん書かれたカルタですが、この大変さ・辛さをもっと啓発していく必要性を改めて感じたご講演でした。

鍼通電による 頭痛施術

陣内由彦 先生

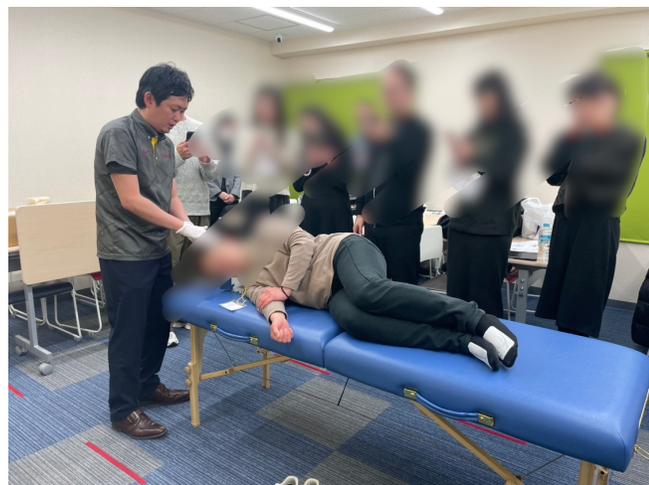
杏鍼灸整骨院 院長
(鍼灸・柔道整復師)

実技指導でした。前半の池田先生のご講演で鍼灸に期待する効果として肩甲骨内側のコリというお話があったため、急遽伏臥位にて肩甲骨内側の筋群に対する安全な鍼通電療法も教えていただきました。

前半に実際に陣内先生の鍼灸院を訪れた二次性頭痛の症例を紹介しながら講義していただきました。救急車を呼んだ事例を挙げ、問診・検査のどの時点のポイントがレッドフラッグに繋がったのかなどの具体例が提示され、とても良い学びとなりました。後半は、側臥位での三叉神経領域・側頭筋の硬結・圧痛の触診について、後頭下筋群への微弱通電の実際についての

女性の片頭痛患者さんと 追求する Well-being ～ 頭痛診療医の立場から～ 大場さとみ 先生

おおば脳神経外科・頭痛
クリニック 副院長



Q and A コーナー

事前にいただいていた質問も含め、多くの質問にご回答いただきました
※以下は抜粋です

?

頭痛患者さんは減薬を希望で来るが、飲み過ぎているため病院受診を促すと、「また薬を飲まなきゃいけないのか」と消極的になります。どうすればいいか。

(池田) 病院に向かっていただくのがいいと思うが、きっとその患者さんは今まで病院に受診して思った手応えが得られなかったのかと思います。鍼灸師側としては今はいい薬があって楽になるみたいよ、っていうといいかと思う。私自身も鍼灸師の先生に紹介状をもらったことがあるので、書いてあげるから行ってみなよっていうとハードルが下がるかもしれないですね。

?

医師が鍼灸師に求める治療内容、どんなことを鍼灸師に求めるかなど医師目線での意見が聞きたいです。

(池田) 私の患者さんでも鍼灸院に通っている患者さんは何人もいます。頭痛の予防として頭痛体操などを指導するが、肩甲骨の可動域を広げるのは難しい。私自身が鍼灸師・鍼灸治療に求めるのは肩甲骨内側面のリラクゼーションかなど。そうすることで、片頭痛の種火が消えたり、片頭痛に発展するプロセスの一部を止めることができるのではないかと考えています。

?

起立性調節障害などを併発し、重症化している頭痛患者さんを診ることがあります。頭痛の出現パターンも変化することがありどのように対応したらよいか迷います。

(大場) OD と片頭痛の両方をもっており、結果的に不登校状態になっている児童もいらっしゃると思います。2種類以上の頭痛が混在している場合診断が難しくなりますが、OD 特有の症状（例えば朝が最も症状が強く、午後から軽快することが多いなど）や片頭痛の特徴の有無（誘因があることが多い、体動で増強する、家族歴があるなど）に注目すると両疾患がみえやすくなります。OD の要素が強く、動けない主な原因になっていると判断したら、専門科（小児科）への受診を勧めるとともに、片頭痛の要素もあると判断したら、並行して頭痛専門医も紹介するとよいでしょう。（※一部表現を変更して記載しております。）

?

まだまだ月経時の頭痛は生理痛の一つとして捉えられている方が多いのですが、どこの時点で啓発すればいいのでしょうか。

(大場) 池田先生の実践されているような草の根活動が大事だと思います。例えば幼稚園～高校までであるような学校、保護者も対象とすると幅広い年齢層に広まるかと思います。また企業にも啓発活動をしていて、女性比率が高い職場などは比較的受け入れてもらいやすい傾向があります。女性をターゲットにした啓発活動を進めていくのがいいと思います。

主催 / お問い合わせ

研究代表者：石山すみれ

mtaunity.2024@gmail.com

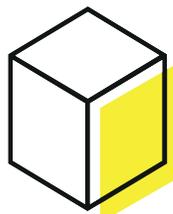
本プロジェクトはPfizer公募型医学教育プロジェクト助成より2024年1月～2025年12月まで助成を受けております。

協賛

NPO 筑波脳神経外科研究会

Special Thanks

前田寛樹先生





第4回 MTA セミナー

医鍼連携モデルの構築に向けて

Migraine Treatment and Acupuncture Unity



日時：2025年7月6日 10:00~15:00

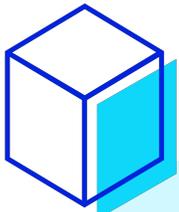
場所：新橋もしくは浜松町付近

(4月以降に案内します)

参加：現地 (40名) ・ ZOOM

参加費：無料 (事前アンケートあり)

対象：はり師、医師、医学・鍼灸学生



10:00~

野村竜太郎 先生

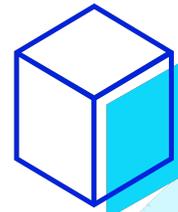
神谷町脳神経外科クリニック
脳神経外科 / 頭痛専門医



11:10~

滝沢翼 先生

慶應義塾大学医学部
神経内科 / 頭痛専門医



13:20~

※現地のみ

萱間洋平 先生

Yeji 鍼灸院 院長
鍼灸師・博士 (医学)

**いつも飲んでいるその薬、
明日の頭痛を
防いでくれますか？
— MOH を防ごう —**

**片頭痛の
トリガーについて**

**頸部 / 肩甲帯の
動きの質による評価を
取り入れた鍼灸臨床**

協賛

NPO 筑波脳神経外科研究会

主催 / お問い合わせ

研究代表者：石山すみれ

mtaunity.2024@gmail.com

本プロジェクトはPfizer公募型医学教育プロジェクト助成より2024年1月~2025年12月まで助成を受けております。

申し込み

アンケート回答必須

Form

